

物理におけるPD問題への取り組みについて

On the measures taken in physics community for promoting careers of postdoctoral researchers

筒井 泉 [1]

Izumi Tsutsui[1]

[1] 高エネ研

[1] KEK

素粒子原子核理論分野では、かつて、1970年代のオーバードクター問題に際して、大学院生や若手研究者が状況打開に向けての先陣を切った歴史があり、近年においても、素粒子ポスドクフォーラムという組織を作って、文部大臣への提言を行うなど、若手研究者が主体的にこの問題に取り組む風土がある。また、平成18 - 19年度には、国立教育政策研究所による「理系高学歴者のキャリア形成に関する実証的研究」の事例調査対象分野となり、キャリア形成という観点で、物理のソサイエティの外側からポスドクターの置かれた現状について、深く掘り下げた調査と議論が行われた。その経緯を踏まえ、物理学会、および、素粒子原子核理論分野におけるポスドク問題の現状と、対応状況を紹介する。